

# 中・高校生の喫煙に関する態度と知識

渡辺紀子\*

(1991年10月15日 受理)

## The Attitude and Knowledge about Smoking among Junior and Senior High School Students

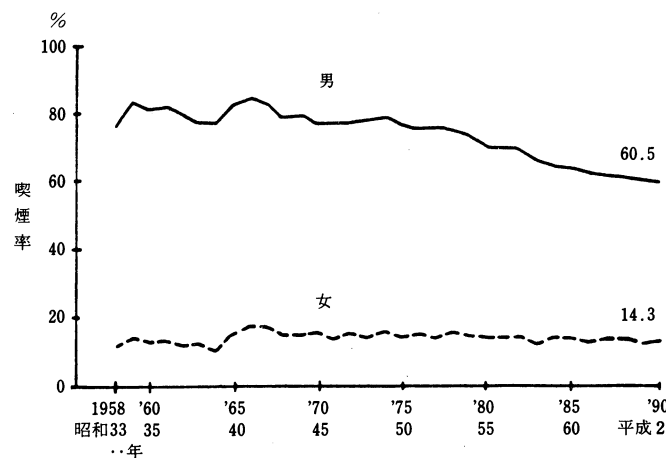
Noriko WATANABE

### I はじめに

近年、喫煙及び受動喫煙の健康への悪影響が明らかにされ<sup>1)-7)</sup>、成人の喫煙率は減少の傾向にあるが(図1)<sup>8)</sup>、しかし青少年の喫煙は逆に増加し、喫煙開始の年齢もだんだん低下してきている<sup>9)</sup>。最近、喫煙者の多くは未成年期に喫煙をはじめているといわれる<sup>10)</sup>。

喫煙は各種疾病の発生要因となり、また一度喫煙習慣が身につくと禁煙はきわめて困難であるが<sup>11)</sup>、青少年からの喫煙は一層健康に有害であり、若い時からの喫煙習慣はさらに断ちにくい<sup>12)-14)</sup>。またすでに青少年喫煙者に呼吸器系障害も認められている<sup>15)</sup>。

青少年をこのような喫煙の害から守り、健康に有害な喫煙習慣を身につけさせないことは、非常に重要であり、そのための喫煙防止教育の必要性は大きい。喫煙防止教育に対する種々のとり組みがおこなわれ<sup>10), 16)-20)</sup>、小学校からの喫煙防止教育も試みられている<sup>21) 23)</sup>が、まだ多くの課題



資料：日本たばこ産業株式会社「全国たばこ喫煙者率調査」

図1 日本における喫煙者率の年次推移<sup>8)</sup>

\*鹿児島大学教育学部保健体育科

が残されている。今回は鹿児島県の都市部と郡部の中・高校生を対象に、喫煙習慣の実態、喫煙に対する態度とその知識等について調査し、喫煙防止等に関する現状について検討した。

## Ⅱ 調査の方法

鹿児島県の都市部と郡部の公立中学校と公立高校それぞれ一校ずつ、各校3年生全員を対象に1985年11月、保健の授業時間やホームルーム時にアンケートによる調査を実施した(集合法)。調査内容は、喫煙状況、喫煙環境(家族の喫煙等)、未成年者・成人の喫煙に対する態度、喫煙の有害性に関する知識等27項目からなり、無記名回答で、回答用紙は各人で回答用紙に添付の封とうに入れ、密封したものを回収した。

調査対象者の家庭の職業は、都市部では約70%が公務員や会社員、約30%が商業・自営業であったが、郡部は約60%が公務員や会社員、約20%が商業・自営業で、残り約20%は農林水産業であった。高校は都市部郡部とも進学率90%をこえる普通科高校である。

回答数は都市部中学生241名(男子129名, 女子112名), 郡部中学生198名(男子108名, 女子90名), 都市部高校生418名(男子214名, 女子204名), 郡部高校生295名(男子162名, 女子133名)で、回収率は約91~99%であった。

## Ⅲ 調査の結果

### 1. 喫煙状況

今までに喫煙を経験したことのある者(喫煙経験者)は表1に示すように、高校生では都市部と郡部に差はなく、全体で男子12.5%, 女子3.9%であり、中学生も郡部は男子9.3%, 女子2.2%で比較的少なかったが、都市部中学生は男子19.4%, 女子18.8%と男女ともに多かった。このうち喫煙習慣を持つ者(時々, あるいは毎日喫煙-喫煙習慣者)は男子では都市部中学生9名(7.0%), 郡部中学生2名(1.9%)で、毎日喫煙者は都市部に2名のみであった。高校生の男子喫煙習慣者は都市部・郡部とも8名(それぞれ3.7%, 4.9%)で、毎日喫煙者は中学生より多く、5名(2.3%)及び7名(4.3%)であった。女子の喫煙習慣者は都市部中学生4名, 郡部

表 1 喫煙経験について

(地 域)		都 市 部	郡 部	喫煙経験者数/回答者:(%)
中学生	男子	25/129(19.4)	10/108(9.3)*	35/237(14.8)
	女子	21/112(18.8)	2/90(2.2)***	23/202(11.4)
高校生	男子	26/214(12.1)	21/162(13.0)	47/376(12.5)***
	女子	7/204(3.4)	6/133(4.5)	13/337(3.9)

\*P<0.05      \*\*\*P<0.005

## 渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

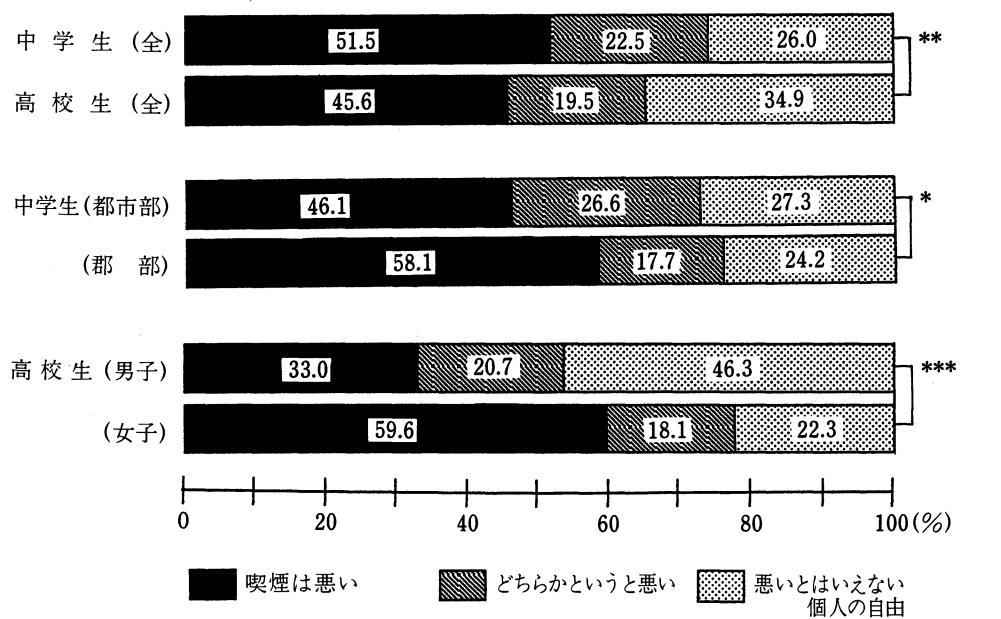
中学生1名，都市部高校生1名で，毎日喫煙する者は都市部中学生に1人いた。喫煙習慣者の喫煙量は中学生で10本以内/週，高校生で10～20本/週の者が一番多かった。これらの者の喫煙開始は中学生は90%が中学生になってから，高校生は45%が中学生の時また同じく45%が高校生になってからであるが，小学校時代に吸いはじめた者もそれぞれ10%程度いた。

喫煙経験者の喫煙の主な動機は中学生では好奇心（39.3%），まわりの人がすすっているのになんとか（25%），友人や大人にすすめられて（21.4%）であり，高校生は好奇心（46.8%），ストレス解消のため（34.4%），まわりがすすっているのになんとか（12.5%）であった。また喫煙の場所は中学生，高校生とも自分の部屋が一番多く（44%，37%）次いで友人の部屋（24%，33%）であり，さらに中学生は公園や空地（24%），高校生は喫茶店・食堂（19%）で吸っている。

## 2. 未成年者・成人の喫煙に対する態度

図2に示すように未成年者の喫煙は中学生の51.5%，高校生の45.6%と約半数の者が悪い，また中学生の22.5%，高校生の19.5%はどちらかという悪いと答えている。しかし高校生は喫煙は悪いとはいえない・個人の自由であると思っている者が約35%おり，中学生の26%より有意に多かった。また中学生は都市部より郡部の方が，高校生では男子より女子の方が未成年者の喫煙は悪いと思っている者が多かった。

未成年者の喫煙が禁じられている理由として（3項目以内複数回答），図3に示すように“一



(\* P<0.05    \*\* P<0.01    \*\*\* P<0.005)

図2 未成年者の喫煙について

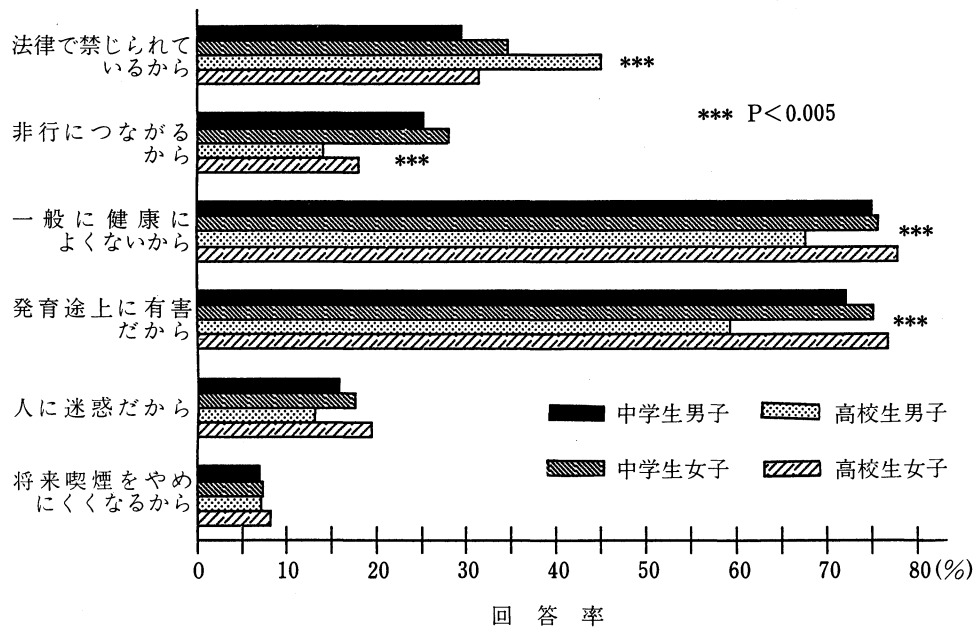


図3 未成年者の喫煙が禁じられている理由 (複数回答)

一般に健康によくないから”“発育途上に有害だから”を約70~75%の者があげている。また“法律で禁じられているから”“非行につながるから”をあげた者は約30~40%いた。しかし“将来喫煙をやめにくくなるから”をあげた者はわずか8%前後であった。高校生男子は中学生男子、女子、高校生女子より“一般に健康によくないから”“発育途上に有害だから”をあげた者が少なく、逆に“法律で禁じられているから”をあげた者が多かった。

成人の喫煙については、成人男子の喫煙は、中学生及び男子高校生は12~15%の者が悪いと答え、女子高校生の24.4%より少なく、逆に中学生及び男子高校生の60%以上の者が喫煙は悪いとはえない・個人の自由であると答え、女子高校生の42.7%より多かった。しかし成人女子の喫煙については、悪いと答えた者が中学生41.5%、高校生62~65%で、悪いとはえない・個人の自由であると答えた者は中学生32.1%、高校生男子25.5%、高校生女子16.6%といづれも少なかった(図4)。喫煙に対する態度は、未成年者・成人の喫煙とも中学生では男女差はみられなかったが、高校生では男子は喫煙に対してより肯定的であり、女子はより否定的であった。

成人の喫煙が悪い、どちらかという悪いと答えた者がその理由として、成人男子の喫煙では中学生・高校生とも第一に健康に悪いから(約50%)次いで人に迷惑だから(約36%)をあげているが、成人女子の喫煙は、悪い理由として中学生・高校生とも第一に感じが悪いから(約49%)、次いで健康に悪いから(約41%)となっている(図5)。これらに男子生徒・女子生徒、また学校による違いは認められなかった。

## 渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

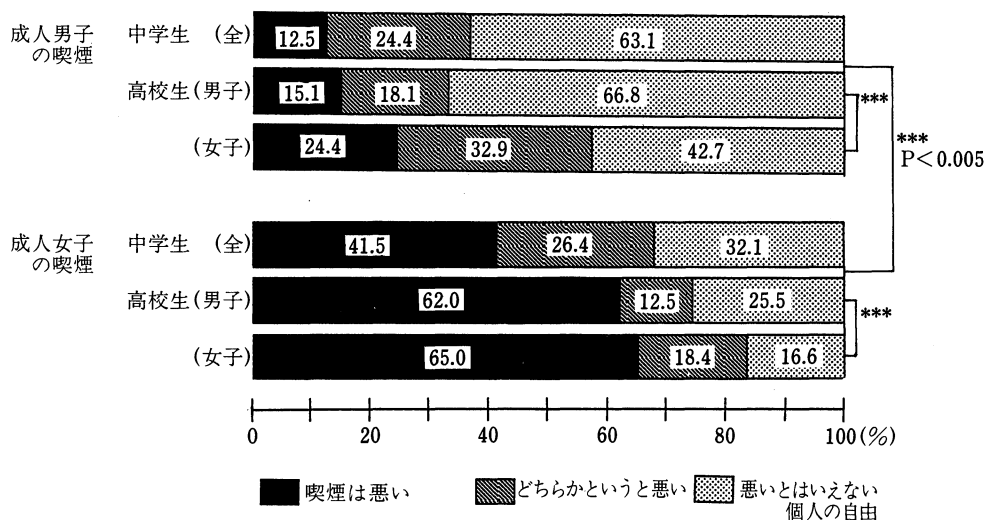


図4 成人の喫煙について

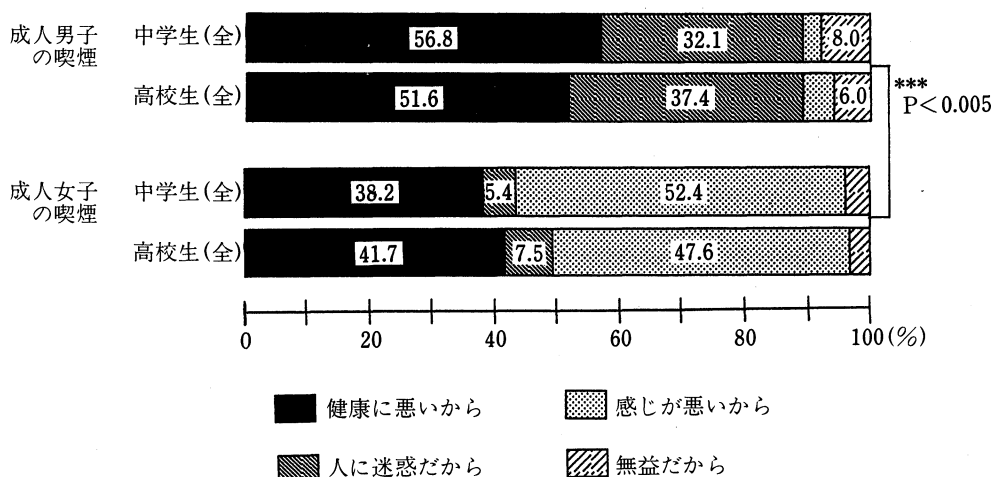


図5 成人の喫煙が悪いと思う理由

## 3. 喫煙の有害性に関する知識

喫煙の有害性については、表2に示すように中学生高校生とも約90%の者が喫煙は健康に有害であることを知っていた。また受動喫煙も85%以上が健康に有害であると答えている。さらに受動喫煙は不快感等人に迷惑であると答えた者が約10%前後いた。自身の喫煙は少量なら健康に影響ないと答えた者が約10%いたが、受動喫煙が健康に影響ないと答えた者はわずか2%程度であった。しかし嫌煙権という言葉はあまり知られておらず、半数以上が知らなかった。また、中学生より高校生、郡部の生徒より都市部の生徒は嫌煙権についてよく知っている者が多かった。

次に、従来の研究で喫煙との関係が明らかにされた疾病を中心に、10項目について喫煙との関連をたずね、喫煙が関連していると思う者の割合を図6に示した。

表 2 喫煙の影響について

項目		対 象	中学生 (439名)	高校生 (713名)	都市部・計 (659名)	郡部・計 (493名)
喫煙の健康への影響	非常に有害		43.7%	49.0%	43.8%	51.1%*
	有害		44.4	41.9	46.3	38.3
	少量なら影響ない		11.9	9.1	9.9	10.6
受動喫煙の影響	健康に有害		85.9%	88.2%*	85.0%	90.5%*
	人に迷惑(不快感)		13.4	9.4	12.6	8.7
	健康に影響ない		0.7	2.4	2.4	0.8
嫌煙権について	よく知っている		4.6%	19.8%***	17.0%	9.9%***
	聞いたことがある		17.1	20.6	20.3	17.9
	全然知らない		78.3	59.6	62.7	72.2

\*P&lt;0.05

\*\*\*P&lt;0.005

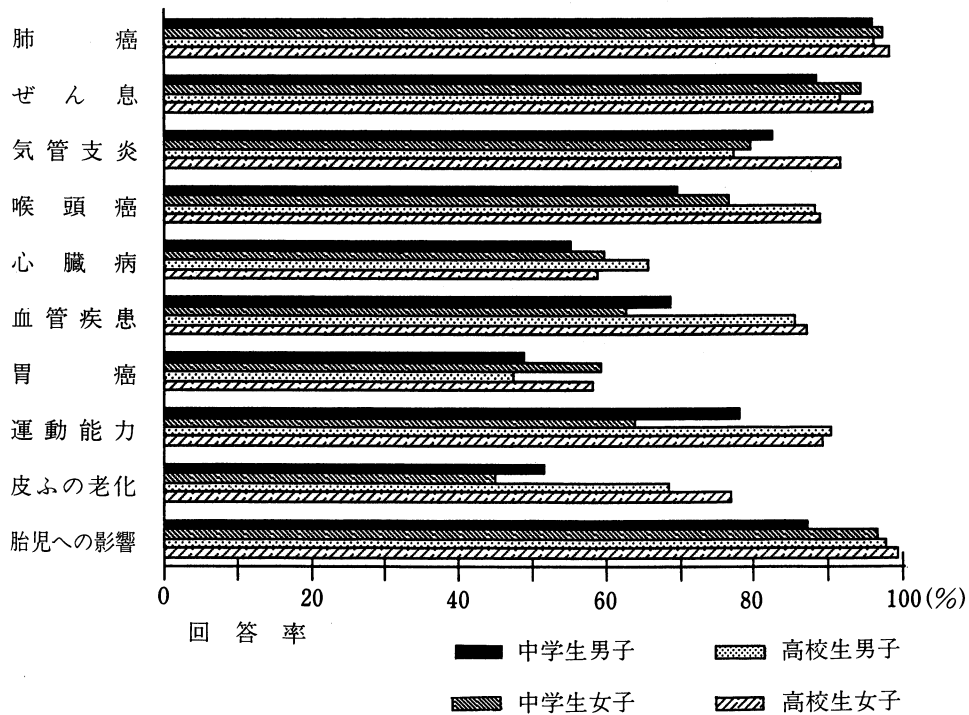


図 6 喫煙関連疾患等についての知識 (回答率-関連ありと答えた者の比率)

喫煙との関連が最もよく知られているのは肺癌，ぜん息で，90%以上の者があげている。次いで気管支炎，喉頭癌等呼吸器系疾患，胎児への悪影響もよく知られていた。しかし心臓病や胃癌については，喫煙との関連はあまり知られていなかった。喫煙との関連疾患については中学生より高校生，男子生徒より女子生徒の方がよく知っている傾向がある。

#### 4. 将来の喫煙

喫煙，受動喫煙の健康への有害性は大部分の者が認めていたが，しかし将来絶対喫煙しないと答えた者は男子中学生で21.1%，男子高校生で34.0%にすぎず，どちらも約30%の者は将来喫煙

## 渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

表 3 将来の喫煙について

項目	男子生徒		女子生徒		男子生徒	女子生徒
	中学生 (237名)	高校生 (376名)	中学生 (202名)	高校生 (337名)	合計 (613名)	合計 (539名)
絶対喫煙しない	21.1%	34.0%***	54.5%	68.2%***	29.0%	63.1%***
多分喫煙しない	46.0	37.8	37.6	27.6	41.0	31.3
喫煙する	32.9	28.2	7.9	4.2	30.0	2.6

\*\*\*P&lt;0.005

表 4 家族の喫煙状況

家族		都市部中学生 (241名)	郡部中学生 (198名)	都市部高校生 (418名)	郡部高校生 (295名)
喫煙者あり	父親	140人(58.1%)	96人(48.5%)	202人(48.3%)	143人(48.5%)**
	母親	27 (11.2)	11 (5.6)	16 (3.8)	7 (2.4)
	兄弟	19 (7.9)	20 (10.1)	35 (8.4)	50 (16.9)
	姉	1 (0.4)	1 (0.5)	5 (1.2)	4 (1.4)
	祖父母等	28 (11.6)	25 (12.6)	21 (5.0)	11 (3.7)
喫煙者なし		76人(31.5%)	83人(41.9%)	183人(43.7%)	117人(39.7%)

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01

表 5 親の喫煙の影響

項目	調査対象 親の喫煙	中学生		高校生	
		有(246名)	無(193名)	有(356名)	無(357名)
喫煙経験	あり	14.6%	11.7%	9.3%	7.6%
	なし	85.4	88.3	90.7	92.4
将来の喫煙	絶対喫煙しない	32.1%	42.4%*	51.1%	50.7%
	多分喫煙しない	42.7	41.9	30.1	35.7
	喫煙する	25.2	15.7	18.8	13.6
未成年者の喫煙	悪い	49.8%	54.5%	46.2%	44.8%
	どちらかという悪い	27.1	21.2	19.2	20.5
	悪いとはいえない・個人の自由	23.1	24.3	34.6	34.7
成人男子の喫煙	悪い	8.9%	17.4%*	16.9%	22.5%*
	どちらかという悪い	25.0	23.7	25.5	20.7
	悪いとはいえない・個人の自由	66.1	58.9	53.6	56.8
成人女子の喫煙	悪い	41.4%	42.5%	65.1%	63.6%
	どちらかという悪い	27.0	25.1	15.2	13.5
	悪いとはいえない・個人の自由	31.6	32.5	19.7	22.9

\*P&lt;0.05

